

入選

朝のあいさつ

北海道 緑中学校 二年

藤田 凌太

「おはようございます。」

これは、私がとても大事にしている言葉だ。

「おはようございます」は、たった9文字だけれど、一日の始まりを合図してくれる。そんな「おはようございます」を使って、私たちは毎朝たくさんの人とあいさつを交わしている。

私は、小学生の頃、あいさつ運動という毎朝校門に立って登校してくる人たちと、あいさつを交わす運動の担当をしていた。朝早くから、たくさんの人たちが登校している。

そのとき、校門の前に走ってきた1年生が元気よく、

「おはようございます。」と、声をかけてくれた。私も元気よく、

「おはようございます。」と返す。

1年生は、嬉しそうな顔をして学校へと入っていく。自然にこっちまで嬉しくなった。私は登校してくる人たちに、どんどんあいさつをしていく。

しかし、あいさつを交わす中で、

「おはようございます」と言っても、「おはようございます」と返してくれない人が何人かいた。私は、とても悲しかった。

でも、そこで初めてわかった。「おはようございます」は、朝の合図だけではなく、人とのふれあいをもっともっと活発にしてくれるということと、「おはようございます」は、出すものではなく必然的に出るということだ。

その日から私は、「おはようございます」をより人に寄り添って伝えるようにしていった。相手の顔を見ながら満面の笑みで、

「おはようございます！！」

これを毎日続けていくと、いつしかあいさつを返してくれなかった人たちが、あいさつを返してくれるようになった。

今中学2年生の私は、地域の人たちと毎朝、あいさつを交わしている。裏表のないまっすぐな目、そして大きな声で交わすあいさつは、その一日をもっともっと充実させるものになる。私は、

「おはようございます。」

を私にとっても相手にとっても、より気持ちの良いものになるようにしていきたい。